

ジョン・ラスキンと J. P. フォーンソープ

——『フォルス・クラヴィゲラ』の索引をめぐる——

花 角 聡 美

はじめに

本論文は、ジョン・ラスキン (John Ruskin, 1819–1900) の後期の著作『フォルス・クラヴィゲラ——イギリスの勤労者と労働者への手紙』(*Fors Clavigera: Letters to the Workmen and Labourers of Great Britain*, 1878–1884; 以下、*Fors* と略記する) の 8 巻本に別巻として付された『フォルス・クラヴィゲラへの索引』(*Index to Fors Clavigera*, 1887) について、ラスキンとジョン・ピンチャー・フォーンソープ (Reverend John Pincher Faunthorpe, 1839–1924) が交わしたやりとりを記した両者の自筆メモを翻刻したうえで、索引作成に当たっての彼らの基本理念について考察をおこなう。この資料が所蔵されているのは一般財団法人ラスキン文庫 (東京都中央区) 内の御木本隆三旧蔵書コレクションである。本稿で主として用いる 2 点の資料には、自著の索引についてのラスキンの見解が示されている。1887 年に刊行されたフォーンソープの手になる索引は、ライブラリー版ラスキン著作集の最終巻 (第 39 巻) の「総索引」(General Index) には反映されていない。ここで 2 点の資料を読解することによって、『フォルス』の索引の成立に関する新たな知見を得ると同時に、ラスキンとフォーンソープの間には、索引に対する重大な見解の相違があったという仮説を検証していきたい。

I. 『フォルス・クラヴィゲラ』の諸版と複数の索引

『フォルス・クラヴィゲラ』は、1871年から84年までに分冊で出版された96通の公開書簡である。1871年1月から1878年3月にかけては第1書簡から第87書簡まで月間で刊行された。その後1878年2月から3月にかけて著者が体調を崩したために一時中断されたが、1880年3月に再開、翌84年12月まで不定期ながら9通が刊行された。その内容は同時代の勤労者・労働者のありようから時事的な話題、著者の自伝的な回想（自伝『プラエテリタ』の原型となるいくつかの文章）、また美術批評（ホイッスラーを酷評し告訴される一文を含む）まで、多岐にわたる。そのなかでも特筆すべきは、「セント・ジョージのギルド」（the Guild of St. George）の構想であり、そのヴィジョンと同時に、それをいかに具現化しようとしたかが詳細に記述されている。

10年以上の年月にわたって書かれた『フォルス・クラヴィゲラ』は、ライブラリー版著作集（第27-29巻）に収録される以前に以下の版がある。いずれも印刷者はジョージ・アレン（George Allen, 1832-1907）であった。

I-1 ^{オクターヴォ} 8折判の判型で、ほぼ月刊、書簡が一通ずつ冊子のかたちで出された。

I-2 1年分（前述のように第8巻は例外）の書簡12通を1冊にまとめた版、全8巻。

I-3 「小型版」（The Small Edition）と呼ばれる4巻本。W. G. コリングウッド（W. G. Collingwood）編。その名のとおりに小型版であるのみならず、『フォルス』の妙録。1896年刊行。

以上の3つの版はいずれも増版され、その間に若干の改定がなされ、価格の改定もあった。

『フォルス』の索引については、ライブラリー版著作集を含めて、異なる編者の手によるものが4種ある。

II-1 ラスキン自身が編集。第48書簡まで。第1書簡から第24書簡ま

での索引は、上述 I-2 の第 2 巻末に、第 48 書簡までの索引が第 4 巻にそれぞれ巻末に付されている。

II-2 J. P. フォーンソーブが作成。『フォルス・クラヴィゲラへの索引』(*Index to Fors Clavigera*) として 1887 年に刊行。上記 I-2 に付すかたちで刊行。

II-3 コリングウッドが作成。上記 I-3 の「小型版」第 4 巻の巻末に収録。

II-4 「ラスキン索引」(*Ruskin's Index*) としてライブラリー版ラスキン著作第 29 巻に収録。著作集の編者である E. T. クック (Edward Tyas Cook, 1857-1919) とアレグザンダー・ウェダバーン (Alexander Wedderburn) の手になるが、I-1 に示した索引後もラスキンは作成を継続しており、ほとんどの項目がそれを引き継いだものと思われる。

月刊分冊の『フォルス』を読んで感銘を受けたのが、フォーンソーブである。彼は、英国で最古の女子高等教育機関として、女性の教員養成を目的に 1841 年に設立された、ホワイトランズ・コレッジ (Whitelands College, London; 現在は University of Roehampton の一部) の初代校長を務めた人物である。ラスキンの著作の中でもとりわけ『フォルス』に共鳴し、セント・ジョージのギルドへの寄付の意味を込めて、5 ポンドの金を同封した手紙をラスキンに宛てたことから、両者の交流が始まった (Atwood 155)。ラスキンの伝記作者であるティム・ヒルトンによれば、ラスキンがフォーンソーブに関心を抱いたのには、主に 2 つの理由がある。まず 1 つには、フォーンソーブが『『フォルス』の専門家』を自称していたことである。それゆえに『フォルス』の完結を待ちわび、索引の作成を申し出たため、ラスキンの興味を引くこととなった。そしてもう 1 つには、彼が女子校の校長であることが大きな理由であったようである (Hilton 441)。『ごまとゆり』(*Sesame and Lilies*, 1865) といった著作を有するラスキンにとって、教育の現場において女子生徒とのつながりを持っている人物は、おそらく魅力的に映ったのだろう。ラスキンとフォーンソーブ、およびホワイトランズ校の関係は徐々に深まった。ラスキンは自身の著作を含む多大な

寄贈品を提供したほか、特にメイ・デイ・フェスティバル (May Day Festival) の企画を通して親交を深めた。メイ・デイ・フェスティバルにおいて選出されるメイ・クイーン (May Queen) が着用するドレスのデザイン考案のために尽力し、またクイーンへのギフトを選定するなど、ラスキンがフォーンソーブとともに積極的に関与したことがうかがえる (Atwood 155–58; University of Roehampton)。これが契機となって、後にラスキンはフォーンソーブに索引作成という大仕事を任せることになったのだと推測される。

その索引作成の詳細については不明な点が多い。索引作成はそもそもラスキンがフォーンソーブに依頼したのか、それともフォーンソーブ自身が作成を希望してラスキンにそれを申し出たのか、詳らかでない。この点を探るうえでも御木本隆三コレクションの資料は一つの手がかりを与えてくれるように思われる。

II. 資料の全容

まずここで資料の全体像を画像と翻刻、また日本語訳によって紹介する。フォーンソーブの書込み部分が大半を占め、それに反応してラスキンが小さな文字で書き込んでいる。便宜上、ラスキンの書込み部分は〔 〕で囲み太字で示す。

【資料 1】

These books are well indexed

- 1 Modern Painters
- 2 The Stones of Venice
- 3 Arsons of the Chace

2 For vol 3 & 4

Art Index

1. Is it to include Art matters
in the above? I don't quite understand this question
- I should say - certainly - even the
drawing seems on the whole -
2. It is to include the or (on)
lectures & (works 1 to 41). Certainly
3. What book could it be
well founded on Eagles Nest - starting from
the other repeated lectures & that;
4. Then there ^{in us when what there are!} are many scattered
Enaps of yours, ^{impossible to index}
until they are collected into a
volume. Miss Kemm & I were going to do
~~that~~ if we had got your consent.

These works are well indexed

1 *Modern Painters*

2 *The Stones of Venice*

3 *Arrows of the Chace*

& *Fors* vols 3 & 4

Art Index

1. Is it to include Art Matters in the above?

[I don't quite understand this question—I should say—certainly—everything bearing seriously on the Arts.]

2. Is it to include the Oxford Lectures & (Works I to XI) [?]

[Certainly]

3. What book could it be well founded on [?]

[Eagle's Nest—attaching first the other Oxford lectures to that.]

4. Then there are many scattered Essays of yours, [I've no idea what these are!] impossible to index until they are collected into a volume. Miss Kemm and I were going to do that if we had got your consent.

以下の著作は索引がしっかりとできています。

1. 『近代画家論』
 2. 『ヴェネツィアの石』
 3. 『狩りの矢』
- 加えて『フォルス』3巻と4巻

芸術の索引

1. 上記のなかに芸術の事柄を含めますか？
[質問の意味がまったくわかりません。確かに、あらゆることが諸芸術と重要な関わりを有している、と申すべきでしょう。]
2. オクスフォードの講義（1 から 11 までの講義録）は含めますか
[そうしてください。]
3. どの作品を基礎としますか。
[『鷲の巣』を最初に置き、その他のオクスフォード講義を続けてください。]
4. お書きになったものには雑篇がたくさんおあります。
[何を指しているのか見当が付きません！] それらが1つの巻に収められなければ索引を付けるのは無理です。ご同意いただけていたら、ミス・ケムと私でそれを行うつもりでおります。

【資料2】

The Economy & Manners Index

He will include

For
unto his dust
This of the dust
&c.

But

1. Is the style of index in vol 4
For the right thing? Well I don't know
I think if half the ^{things} ~~things~~
were left out, and the
rest amplified, yes. It is
rather a Guide than an
index which is wanted
such as you would like to have
for any one of your intelligent
girls.
2. Just what is?
3. Can't you get a couple of copies
of the index in vol 4 from
Mr Allen ^{certainly} & go over the books
with me - I should see my
way. - but I should see mine. I haven't got
any way - and should only be bewildered

The Economy and Manners Index

This will include

Fors

Unto This Last

Ethics of the Dust

& etc.

But

1. Is this style of Index in vol 4 *Fors* the right thing? **[Well I don't know. I think if half the articles were left out, and the rest amplified, yes. It is rather a Guide than an index which is wanted such as you would like to have for any one of your intelligent girls.]**
2. If not what is?
3. Could you get a couple of copies of the Index in vol 4 from Mr Allen **[Certainly]** & go over two pages with me [?]**—I should see my way. [But I shouldn't see mine. I haven't got any way—and should only be bewildered.]**

エコノミーとマナーの索引

ここに含める予定でいるのは以下です。

『フォルス』

『この最後の者にも』

『塵の倫理』

その他。

しかし

1. 『フォルス』第4巻に掲載されている索引の様式は正しいのでしょうか。
[さあ、わかりません。項目の半分を省いて残りをふくらませるのであれば答えは「イエス」です。必要なのは索引というよりはむしろ、貴殿の〔女学校の〕聡明な娘さんたちのために貴殿が持ちたいと思われるような「ガイド」なのです。]
2. もしそうでないなら、何が正しいのでしょうか。
3. アレン氏から第4巻の索引のコピーを2部もらい、私と一緒に2ページほど読み直していただけませんか。[わかりました。]私は自分の方法を思案しなければなりません。
[ですが私は自分の方法なんぞ当然わかりません。何の方法も持ち合わせておりません——〔方法などあったら〕まごついてしまうだけのことです。]

以上、2 点の資料を翻刻し訳した。これらの資料は、縦 23 cm×横 37 cm の紙一枚を二つ折りにし、それぞれが縦 23 cm×横 18.5 cm の大きさの中に記されている。前述の御木本コレクションの中でもフォーンソーブが編集した『フォルスへの索引』(*Index to Fors Clavigera; Letters to the Workmen and Labourers of Great Britain*, by John Ruskin. Vols. I to VIII. Orpington, Kent, G. Allen. 1887) の表紙に挟められた状態で保管されていた。御木本隆三 (1893–1971) のラスキン・コレクションは、彼自身がたびたび渡英し、収集したものであるが、4 つに大別される入手経路の中でも、『フォルス』はおそらく「二、ロンドンラスキン協会長、故フォンソーブ教授の蒐集されしもの」(御木本 16) に該当するものと思われる。御木本とフォーンソーブには直接の面識はなく、フォーンソーブの没後、古書市場に出品されていたものを購入したと推測される (川端 161)。御木本の入手経路には明確ではない部分が多いが、上述の点を踏まえれば、当該の『フォルスへの索引』は、フォーンソーブが所持していた期間がある可能性はきわめて高い。

これらの資料に記された内容は、いずれもラスキンとフォーンソーブのやり取りであると断定できる。その理由は保管場所に加えて 2 点挙げられる。まず 1 点目は、筆跡である。資料 2 点はいずれも質問文とそれに対する回答が記されており、明らかに 2 人分の筆跡を見てとることができる。質問文はフォーンソーブの筆跡、その質問に対する答えである小さな文字はラスキンの筆跡である。ラスキンの筆跡は『ジョン・ラスキン書簡集』(英文版)、フォーンソーブの筆跡は米国ウェルズリー・カレッジ (Wellesley College) が所蔵するフォーンソーブ関連文書、たとえば 1881 年 4 月 5 日付のラスキン宛の手紙 (Faunthorpe, Letter) によって確認できる。そして もう 1 点は、内容に関してである。資料 2、質問 1・2 への返答では、“your intelligent girls” という表現が用いられており、女子校の校長を務めるフォーンソーブが“you”であることには矛盾がないものと考えられる。これらの点から、フォーンソーブが投げかけた質問に対してラスキンが回答

したものとは断定できる。

続いて、これらが書かれた時期を考察する。そこで鍵となるのが、1883年3月14日にラスキンがフォーンソープに宛てた手紙である。

You could not better help me, and all that you think right in my books, than by quietly arranging a General Index of the important topics, Fors being the basis, and the other political economy books collaterally given. The *Art* Index should be a separate book from the Economy and *Manners* index — *Manners* better than *Morals*, for I've never gone into Moral Philosophy — and all minor matters and things ignored. (Wise 54)

〔いちばん私の助けになること、また私の著作のなかで貴殿が正しいと思っていられしすべての助けとなってくれることは、重要な項目からなる総索引を黙々と整えていただくことです。『フォルス』を土台とし、ポリティカル・エコノミーの著作を副次的に含めてもらえますか。アートの索引は、エコノミーとマナーの索引とは別個の本にするべきで——私は道徳哲学には足を踏み入れたことがないので、「道徳」よりも「マナー」のほうがよいのです——すべての小さな問題や事象は無視されるべきです。〕

この手紙の内容は、資料の内容との関連が非常に深い。手紙の中で別物であることが望ましいとされている“Art Index”と“Economy and Manners index”は、資料1・2にそれぞれ分けて検討されている。「フォルスを土台とし、ポリティカル・エコノミーの著作を副次的に含める」という記述は、資料2で言及された『この最後の者にも』(*Unto This Last*, 1860)、つまり“political economy”に取り組んだ著作を指すものと考えられる。

さらにこの手紙から2年後、1885年3月15日にラスキンがフォーンソープに宛てた手紙において、再び『フォルス』の索引が話題にされている。“That *Index to Fors Clavigera* must be awful! But it will be thrice the book, Index once done.” (Wise 79) (「あの『フォルスへの索引』は凄いものとなるに違いありません！しかし索引が一度完成すればおそらく本が3倍になるでしょう。)」という文言が見られる。この時には『フォルスへの

索引』と明記されており、2年の間に計画が変更され、『フォルス』以外の著作は完全に分離もしくは除外されたようである。これらのことから、2点の資料が書かれた時期は、1883年3月から1885年3月の間、その中でも1883年3月14日に近い時期であると推定される。

III. 内容の考察

資料1において検討している「アート・インデックス」(Art Index)には、まず『フォルス』を含む4作品が提示されており、それらの索引がよくできていると評されている。確かにこれらの作品は全て、1883年以前に個別の索引が作成されている。そして質問1では、これら上記の索引の中の「芸術の事柄」(art matters)を「アート・インデックス」に含めるのか、と問いかけている。表記の方法をよく見ると、『フォルス』が他の3作品と区別されており、この質問1に『フォルス』が含まれるのか定かではない。しかし、少なくとも『近代画家論』(*Modern Painters*, 1843–60)、『ヴェネツィアの石』(*Stones of Venice*, 1851–53)、『狩りの矢』(*Arrows of the Chace*, 1880)は、いずれもその著作の性質から、ラスキンが指摘するように、全てのものが「アート」(芸術)と密接に結びついている。ラスキンにはどうやら質問の意図がうまく伝わっていない様子だが、フォーンソープはすでに個別の索引として存在している項目を、改めて「アート・インデックス」に含める、つまり新たに作成する索引に再掲載するのか、ということを確認したかったのではないかと考えられる。続く質問2・3では、オクスフォードでスレイド記念美術教授(Slade Professor of Fine Art)として1870年から75年にかけて行った美術講義11点(それぞれ講義録として個別に刊行されていた)が取り上げられており、「アート・インデックス」作成において重きが置かれていたことがうかがえる。ラスキンはこれら11の講義を「アート・インデックス」の対象として含めることに合意しており、その上で基盤とすべきは『鷲の巣』(*Eagle's Nest; the Lectures on the Relation of Natural Science to Art*, 1872)であると考えていたようである。そして最

後の質問4では、フォーンソープは「エッセイ」がたくさんある、と言っているが、ラスキンの回答にもあるように、何を指しているのか明確ではない。しかしながら上記の文脈から、オクスフォード講義を指すのではないかと考えられる。これら11の講義は、それぞれ単体で出版されていたものの、1つのシリーズとしてまとめられていたわけではない。ラスキン(you)の同意が得られたなら、ミス・ケム(Miss Kemm、ホワイトランズ・コレッジの関係者)と自身(フォーンソープ)で実行することになっていた、というのは、例えば『フォルス』8巻本のように、1つのシリーズとしてオクスフォード講義をまとめた上で、それに索引を作成する、ということだったのではないだろうか。以上のことから、フォーンソープが思い描いていた「アート・インデックス」というのは、11点の講義録を集約した「オクスフォード講義の索引」を作成し、そこに前述の3作品の「芸術の事柄」を統合したものではないかと推測できる。

一方、資料2では、「エコノミーとマナー」(Economy and Manners)としながらも、『フォルス』の索引に踏み込んだ内容となっている。質問1・2では、資料1でも言及されている『フォルス』第4巻の索引は正しいスタイルなのか、そして正しいスタイルとは何か、尋ねている。これはまるで、フォーンソープはラスキンが作成した『フォルス』の索引のスタイルは正しくないと考えていた、と受け取ることができるような質問である。さらに質問3では、自分のやり方(my way)を見出す必要があるとして、そのためにラスキンの協力を仰いでいる。第48書簡まではラスキン自身が作成し、かつ出版された索引が存在していることを考えれば、フォーンソープにその意思さえあるなら、ラスキンの意向を反映したものを作成できたはずである。しかしながら、フォーンソープはあくまでも自身のスタイル(方法)で進める姿勢を見せており、ラスキンの作成方法をそのまま踏襲する意思がないことが感じられる。フォーンソープが独自の方法を貫いて作成した索引については、後ほど改めて述べる。

フォーンソープによるこれら3つの質問は、索引にまつわるラスキンの

貴重な意見を引き出している。ラスキンは質問の答えとして、『フォルス』第4巻の索引は、手を加えなければ「正しい (right)」ものとはならないことを示唆している。見出し語の半分を削除しなければならないというのは多少誇張のようにも聞こえるが、彼が自身の索引に必ずしも満足していないことは、書簡(本文中)の記述から読み取ることができる。第24書簡までの索引が刊行される直前、1873年6月の第30書簡で索引の作成について触れている。“It is easy enough to make an index, as it is to boom of odds and ends, as rough as oat straw; but to make an index tied up tight, and that will sweep well into corners, isn’t so easy.”〔寄せ集めで片付ける、麦わらのように中身がない索引を作ることは、十分簡単なことである。しかし、中身が詰まっていて、隅々まで網羅するものを作ることは、同じように簡単なわけではない〕(27.553)。索引を作成すること自体は簡単なことだが、整ったものに仕上げるのは単純な作業ではないことを認識しており、彼自身が多大な労力を費やすとともに、大変苦勞していたであろうことは想像に難くない。さらに“this unlucky index” (27.553)と言及しており、作成した当初から思い描いた通りではなかったことをほめかしている。

先の引用で見たように、ラスキンは、求められているのは索引ではなくガイド (Guide) だと述べている。おそらく彼が目指していたものは、今日、我々が「索引」と聞いて連想するような、語彙とページ番号を紐づけたものではなく、語彙に定義や解説を付け加えたものだったようである。この裏付けとなるのが、ライブラリー版著作集本文中の注釈である。『フォルス』全体を通して、内容に関する重要な語句、古典の引用などについて注釈が付いており、その中には、索引と相関性のある語句(注釈)も見受けられる。例として、サブタイトルとしても使われている語句“workmen”と“labourers”を取り上げる。主題である“Fors Clavigera”(ラテン語)の意味、そこに込められた想いを第2書簡で詳しく丁寧語る一方、副題の「労働者」を表す2つの単語については第11書簡でようやく触れている。

... these letters of mine are addressed to the “workmen and labourers” of England, — that is to say, to the providers of houses and dinners, for themselves, and for all men, in this country, as in all others. *

*As in the title of the work, by workmen I mean people who must use their heads as well as their hands for what they do; by labourers, those who use their hands only. — Index to Vols. I. and II. (under “Working Men”) (27.187)

〔私の手紙は、イギリスの「勤労者と労働者」——つまり、彼ら自身、そしてこの国や他国の全ての人々への家屋や食事の提供者——に宛てている。

*この著作のタイトルに示すように、私が「勤労者」という語によって意味するのは、手だけではなく頭を使って仕事する人々である。「労働者」という語によって意味するのは、手のみを使う人々である。〕

注釈にあるように、索引 (Ruskin's Index) で “Working Men” の項目を参照してみると、“spoken of with ‘labourer’ as ‘the two sorts of providers,’ 11.6. [For a note added here by Ruskin, see Vol. XXVII. p. 187n.]” という記載がある。本文下部 (アスタリスク部分) は主語が “I” であることから、ラスキン本人によって書かれたものであることは間違いない。他方、Ruskin's Index には “a note added by Ruskin” という記載があることから、本編の注釈にある “— Index to Vols. I. and II. (under ‘Working Men’) ” という注釈は、おそらく著作集が編集されるタイミングで编者によって追記されたものであることが推定できる。著作集第 29 巻の Ruskin's Index の中で “a note added by Ruskin” との記載があり、実際に本文中に注釈があるのは計 12 箇所存在する——“royalty” (27.29,297), “Richard” (27.54), “science” (27.85), “love” (27.90) “army” (27.185), “artist” (27.186), “working men” (27.186,187), “religion” (27.194), “classes” (27.260), “obedience” (27.297), “imagination” (27.346), “faith” (27.347)。本文脚注では、ここに挙げられている語句について、本文中の意味やラスキンが込めた意図が説明されている。

語句の解説を追加している——言い換えると「ガイド」の片鱗とも取れるものを追記している。ラスキンがこのような補足が必要であると考えるに至ったのはなぜだろうか。この資料が書かれた時期が、1883年から1885年の間と推定されることはすでに述べた通りだが、そうであるならば、『フォルス』は第90書簡前後、もしくは執筆が終了していた頃ということになる。10年以上の時間を経て、おそらく読者からの反響が多数届いていたことだろう。各書簡末の“notes and correspondence”ではラスキンに宛てられた読者からの手紙が紹介され、本文中にコメントが添えられることも少なくないのだが、書簡という形式ということもあり、一方的な議論の展開ではなく、双方向の議論を大切にしていたであろうことがうかがえる。読者から寄せられる手紙というのは、ラスキンが、自身の議論に対する読者からの意見に触れる機会となっていたのはもちろんのこと、同時にそれは読者の理解を図る上でも重要な役割を果たしていたのかもしれない。刊行を開始した1871年当初から、ラスキンが読者の理解力を不安視していたことは間違いなく、実際にその懸念を手紙の中で伝えている。

MY FRIENDS, — It has been asked of me, very justly, why I have hitherto written to you of things you were little likely to care for, in words which it was difficult for you to understand. (27.79; 第5書簡、1871年5月)

仲間たちよ——みなさんがほとんど関心を持ちそうにない事柄について、みなさんには理解し難い言葉でこれまで書いてきたのはなぜか、という至極もつともな質問を私は受けてまいりました。]

MY FRIENDS — A day seldom passes, now that people begin to notice these Letters a little, without my receiving a remonstrance on the absurdity of writing “so much above the level” of those whom I address. (27.181; 第11書簡、1871年11月)

[仲間たちよ——いまやこれらの〈手紙〉[『フォルス』の一連の公開書簡]に人びとが気づいたものですから、私が語りかけている方々の「水準をはるかに超えた」文章を書くなどという馬鹿な真似はおよしなさ

い、という諫言を受けずして一日が過ぎるということはめったにないのです。]

想定された読者である労働者、あるいは世間一般の人々も含んでいるかもしれないが、読者にとって自身の主張が難解であろうことを率直に表現している。当初からこうした不安を抱いていたことに加えて、読者から手紙を受け取る中で、自身の意図と読者の理解には隔たりがある可能性をおそらく感じており、そのことが「ガイド」の必要性に思い至った一因ではないかと考えられる。

IV. ラスキンのフォーンソーブの見解の相違

ラスキンがこうして「ガイド」に考えを巡らせる一方、フォーンソーブは自分自身の索引のスタイルを探ることに熱心である。資料2からわかるように、ラスキンは第4巻の索引をフォーンソーブと共に検討することに難色を示しており、加えて1883年から1885年の間に索引に言及した手紙は見当たらないことから、ラスキンがどのような助言を与え、フォーンソーブがそれをどの程度聞き入れたのかを見極めることは難しい。しかし、1886年にフォーンソーブによる索引が完成した際、それがラスキンの意にそぐわないものであったことは確実である。

There are some points of stubbornness and conceit in you which I never met with before in so kind and able a man. What favour would it be to me though you had spent twenty years of the Index if it was done in a way I didn't like? I entirely dislike the long article "Author" and saw in almost every page needless words which I should put pen through, quite mercilessly [...] I don't care an atom about the expense of revision [...] I am perfectly willing to let it be printed as it is, as the [" White-lands Index"—but certainly with no further preface from me than one of thanks for Whitelands sympathy & industry. (Qtd. in O'Gorman 54)

〔かくも親切で有能な貴殿の中に、私がかつて見たことのないような、

強情さと自惚がいくつかの点で見られます。索引作りに 20 年も費やしてくださったのであっても、私の望まぬやり方でそれが作られたのであったら、いったいどうして私のためになるというのでしょうか。長々と続く「著者」の項目はまったく気に食いません。そしてほぼ全てのページに、ペンを突き刺したくなるような不要な語句が見られるのです。[...] 改訂にかかる出費などまったく気にしません。[...] 「ホワイトランズ索引」として、このままの状態で出版させることは全く構いません——ですが、私が序文を寄せるとしても、ホワイトランズのご厚意とご尽力への謝意程度にとどめ、それ以上のことを書くことはいたしません。]

フォーンソーブが必死に探ったやり方は、ラスキンによって「私の望まぬやり方」(a way I didn't like) という言葉で一蹴された。フォーンソーブの『索引』を見てみると、確かに「著者」(Author) は 30 ページ (pp. 18-47) にも及ぶ。また、ラスキンによる「ガイド」が必要であるという言葉を受けてのことか、語句とページ数のみの記載ではなく、文節が引かれている。総ページ数は 503 ページあるが、ラスキンの手によって添削されていたら、おそらくページ数は大幅に減ったことだろう。フォーンソーブは、酷評を受け、ラスキンによる序文を掲載できず、ラスキン公認という評価を得られなかったという認識があるのか、実際に出版された『フォルス・クラヴィゲラへの索引』の編者の言葉は次のように締め括られている。

I have one hope left, that it may be useful to readers of “Fors Cravigera;” one confession to make, that it is not perfect; and one clear intimation to give, that Mr. Ruskin is wholly irresponsible for its present shape, because he never saw the proofs. January 1887. (Faunthorpe, *Index*, Editor's Note)

[私にはひとつ希望が残っておりまして、それは『フォルス・クラヴィゲラ』の読者にとって、本作がお役に立つのではないかということです。ここでひとつ告白しておきますと、本作が完璧なものではありません。そしてはっきり申し上げておかねばなりません、本作のこの形態について、ラスキン氏にはまったく責任はありません。というの

も、氏は校正刷りを一度もご覧になっていないからです。1887 年 1 月。]

オゴーマンが指摘するように、刊行前に一度も校正刷りを見なかったというのは事実と反するようであり、この歯切れの悪い編者の言葉は、上述のような穏やかならざる背景があつてのことであろう (O'Gorman 53-54)。ラスキンが把握していたか否か、定かではないものの、索引作成にあたり、アルファベット 1 つにつき 1 名の女子学生、計 26 名が関与していたという記録がある (University of Roehampton)。フォーンソーブが独自の方法を追求し、それを貫いた結果、ラスキンには到底承服しがたい索引となった。ラスキンはわざわざ「ホワイトランズ索引」と名づけて、自身と関わりのないものとみなしたのである。

おわりに

本稿において紹介した 2 点の資料は、ラスキンとフォーンソーブが抱く索引に対する見解を探る上での重要な鍵となることが確認できた。これを検討することによって、3 つの点が明らかになった。1 つには、フォーンソーブが索引を作成しようと計画した当初、『フォルス』に限定したのではなく、より壮大な野望を抱いていたことが見えた。およそ 2 年の時を経て、計画は縮小し『フォルス』に的を絞ったようだが、のちの「総索引」に繋がる仕事を目指していたのかもしれない。次に、ラスキンがこの時点で必要であると考えていたものは「ガイド」であり、その認識は本文注釈と照合できるものであることがわかった。この点を踏まえて最後のポイントとして、「ガイド」を意識するラスキン、壮大な索引を目標に掲げるフォーンソーブ、この両者はそもそも目指す方向性が違っていたことである。「索引」というものへの概念が異なるままに進められた結果、フォーンソーブが作成した『フォルスへの索引』は、ラスキンには「気に食わない」として距離を置かれてしまうこととなった。

かくして、ラスキンの弟子 2 人が編者を務めたライブラリー版著作集の総索引は、フォーンソーブ作成の索引とは異なる原則で作成されることになったのである。以上の議論を踏まえた上で、ラスキンによる索引と、フォーンソーブによる索引を細かく見比べることによって、索引作成の原理の相違を考察することが必要だが、それについては稿を改めなければならない。

* 本稿は、一般財団法人ラスキン文庫より、所蔵品の閲覧許可および掲載許可をいただいたことにより執筆することができました。秋山康男代表理事、図書係の柴葉子さんにお礼申し上げます。

参考文献

- Atwood, Sara. *Ruskin's Educational Ideals*. Farnham, Surrey: Ashgate, 2011.
- Faunthorpe, J.P. *Index to Fors Clavigera: Letters to the Workmen and Labourers of Great Britain*. by John Ruskin. Vols. I to VIII. Orpington, Kent: G. Allen. 1887.
- . “Letter from John P. Faunthorpe, Chelsea, London, England, to John Ruskin, Brantwood, England: autograph manuscript signed, 1881 April 5.” *Wellesley College Digital Repository*. <https://repository.wellesley.edu/object/wellesley31183?search=fauthorpe>. Accessed 6 Jan. 2022.
- Hilton, Tim. *John Ruskin: The Later Years*. New Haven: Yale UP, 1985.
- O’Gorman, Francis. “Ruskin, Faunthorpe and the Index to Fors Clavigera.” *English Language Notes*, 35. 3, March 1998, pp 52–58.
- Ruskin, John. *The Works of John Ruskin*, 39 Vols. Ed. E. T. Cook and Alexander Wedderburn. London: George Allen, 1903–12.
- University of Roehampton London. “The History of Whitelands College.” <https://www.roehampton.ac.uk/colleges/whitelands-college/history/>. Accessed 6 Jan. 2022.
- Wise, T. Thomas, ed. *Letters from John Ruskin to Rev. J. P. Faunthorpe, M.A. Vol. II*. London: Privately Printed, 1896.
- 川端康雄『ウィリアム・モリスの遺したもの——デザイン・社会主義・手しごと・文学』、岩波書店、2016 年。
- 財団法人ラスキン文庫『ラスキン文庫蔵書目録——御木本隆三旧蔵書』、1986 年。
- 『ジョン・ラスキン書簡集』（英文版）(*Ruskin's Letters in the Mikimoto Collection*)、ラスキン文庫発行、1994 年。
- 御木本隆三「ラスキンの遺墨・遺稿・遺著書に就いて」『ラスキン文庫』第 12 号、1936 年 2 月 20 日、8–13 頁。